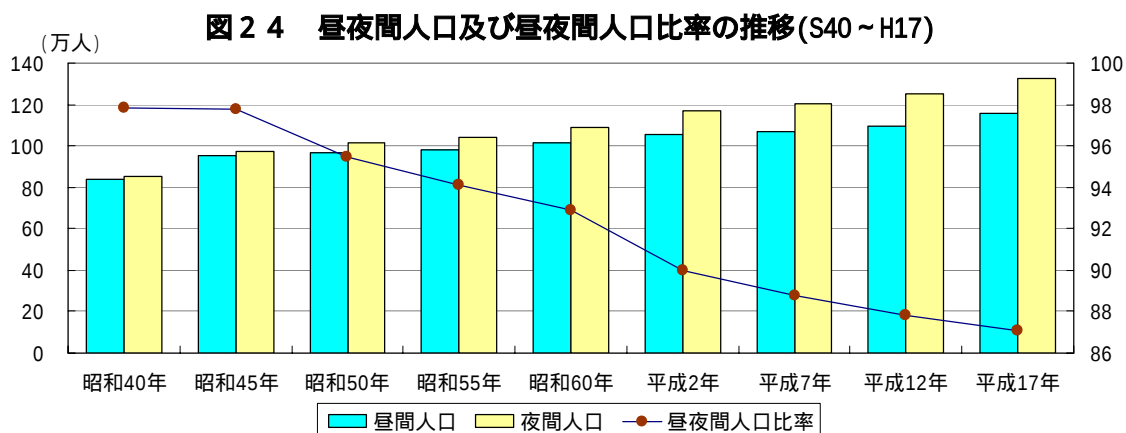


3 夜間人口（常住人口）と昼間人口

（１）川崎市の昼夜間人口比率

- 昼間人口は115万4千人、昼夜間人口比率は87.1 -



平成17年における川崎市の夜間人口（常住人口）は1,326,152人で、昼間人口の1,154,436人を171,716人上回っています。夜間人口100人あたりの昼間人口の割合（昼夜間人口比率）は87.1になりました。

前回の調査と比べると、昼間人口は57,346人（5.2%）増加しましたが、夜間人口が77,123人（6.2%）増加しており、その結果昼夜間人口比率は87.8から87.1へ、0.7ポイント低下しました。

昭和40年以降の調査結果からみると、夜間人口、昼間人口とも増加が続いていますが、川崎市に常住し、他の市区町村に流出する通勤・通学者（流出人口）の増加に比べ、川崎市を従業地・通学地として、他の市区町村から流入する通勤・通学者数（流入人口）の増加幅が小さく、特に前回の調査以降は流入人口が減少していることもあり、その結果昼夜間人口比率は昭和40年（97.9）から平成17年（87.1）まで低下の一途をたどっています。（図24・表16）

表 1 6 昼夜間人口及び昼夜間人口比率の推移(S40～H17)

年次別	夜間人口 (常住人口) (a)	流出人口			流入人口			流出超過人口 (b - c)	昼間人口 (d) (a - b + c)	昼夜間 人口比率 (d/a*100)
		總數 (b)	15歲以上 就業者	通學者	總數 (c)	15歲以上 就業者	通學者			
昭和40年 45年 50年 55年 60年 平成2年 7年 12年 17年	実数									
	854 866	166 701	133 619	33 082	148 348	132 235	16 113	18 353	836 513	97.9
	973 486	202 484	163 724	38 760	180 891	162 478	18 413	21 593	951 893	97.8
	1 014 951	237 693	191 879	45 814	191 597	169 267	22 330	46 096	968 855	95.5
	1 039 977	263 415	215 826	47 589	202 227	178 051	24 176	61 188	978 789	94.1
	1 088 502	298 290	250 217	48 073	221 129	196 422	24 707	77 161	1 011 341	92.9
	1 171 041	370 441	311 651	58 790	252 851	224 453	28 398	117 590	1 053 451	90.0
	1 201 881	390 077	331 012	59 065	255 500	228 327	27 173	134 577	1 067 304	88.8
	1 249 029	388 178	335 718	52 460	236 239	212 897	23 342	151 939	1 097 090	87.8
1 326 152	401 148	352 543	48 605	229 432	208 932	20 500	171 716	1 154 436	87.1	
昭和45年 50年 55年 60年 平成2年 7年 12年 17年	増 加 率 (%)									
	13.9	21.5	22.5	17.2	21.9	22.9	14.3	17.7	13.8	-
	4.3	17.4	17.2	18.2	5.9	4.2	21.3	113.5	1.8	-
	2.5	10.8	12.5	3.9	5.5	5.2	8.3	32.7	1.0	-
	4.7	13.2	15.9	1.0	9.3	10.3	2.2	26.1	3.3	-
	7.6	24.2	24.6	22.3	14.3	14.3	14.9	52.4	4.2	-
	2.6	5.3	6.2	0.5	1.0	1.7	4.3	14.4	1.3	-
	3.9	0.5	1.4	11.2	7.5	6.8	14.1	12.9	2.8	-
	6.2	3.3	5.0	7.3	2.9	1.9	12.2	13.0	5.2	-

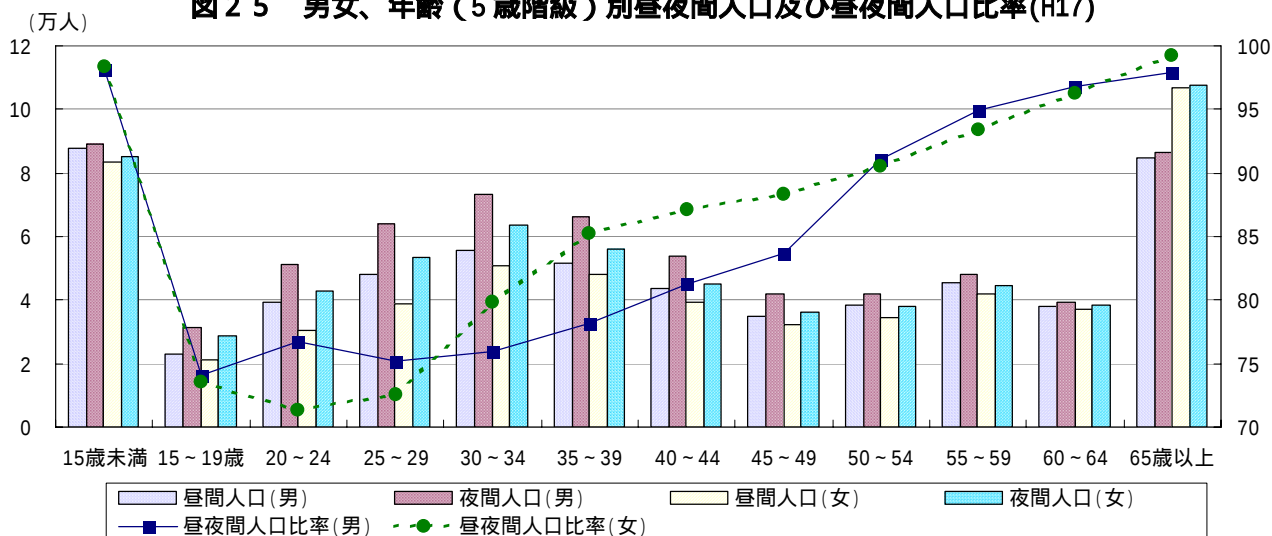
注1) 昭和55年以降の常住人口は年齢不詳を除く。

注2) 通学者は15歳未満を含む。

(2) 男女、年齢別昼夜間人口比率

- 最も低いのは、男性で「15～19歳」の74.1、女性で「20～24歳」の71.3 -

図25 男女、年齢（5歳階級）別昼夜間人口及び昼夜間人口比率(H17)



男女、年齢（5歳階級）別に昼夜間人口比率をみると、すべての階級で男女とも100未満となり、昼間人口が夜間人口を下回っています。

男性では、「15～19歳」で74.1と一番低く、「20～24歳」で76.7に上昇しますが、「25～29歳」で75.1に低下します。「30～34歳」以上は年齢とともに上昇し、「50～54歳」で91.1と男性総数の値（86.0）を上回ります。女性では、「20～24歳」で71.3と一番低く、「25～29歳」以上は年齢とともに上昇し、「45～49歳」で88.3と女性総数の値（88.1）を上回ります。特に「25～29歳」では72.5であるのに対し、「30～34歳」で79.9と上昇の幅の大きさが目立ちます。男性と比べると、15歳から29歳までは男性の昼夜間人口比率の方が高く、30歳から49歳までは女性の方が高く、50歳から64歳までは男性の方が高くなっています。（図25・表17）

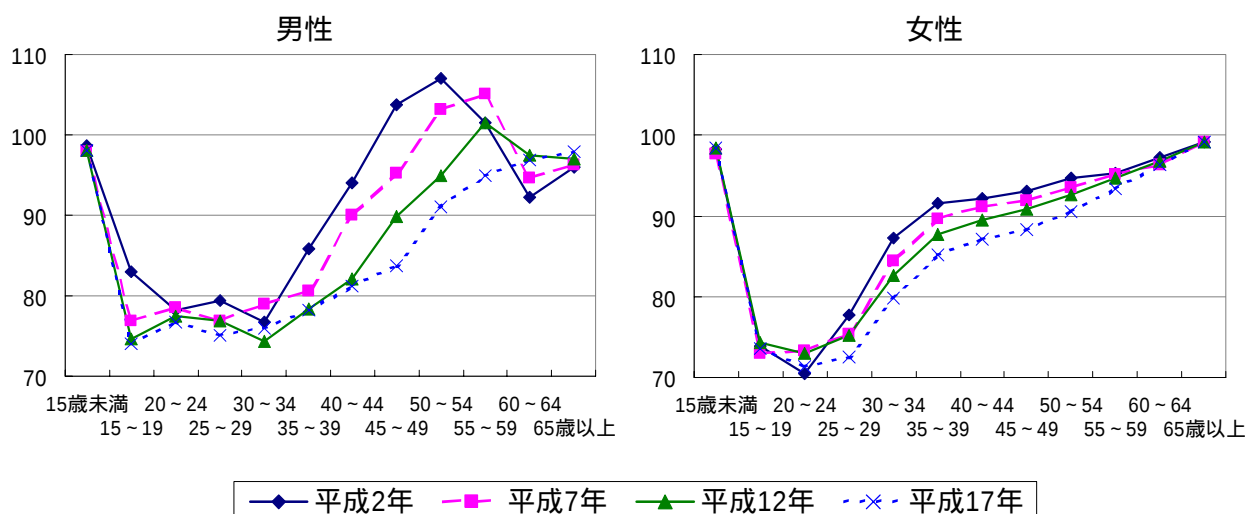
表17 男女、年齢（5歳階級）別昼夜間人口及び昼夜間人口比率(H17)

男女、年齢別	夜間人口 (常住人口) (a)	流出人口			流入人口			流出超過 人口 (b - c)	昼間人口 (d) (a-b+c)	昼夜間 人口比率 (d/a*100)
		総数 (b)	15歳以上 就業者	通学者	総数 (c)	15歳以上 就業者	通学者			
男										
総数	686 230	262 475	236 258	26 217	166 735	155 901	10 834	95 740	590 490	86.1
15歳未満	89 289	2 846	-	2 846	1 164	-	1 164	1 682	87 607	98.1
15～19歳	31 156	13 841	1 555	12 286	5 762	922	4 840	8 079	23 077	74.1
20～24	51 161	23 650	14 022	9 628	11 742	7 222	4 520	11 908	39 253	76.7
25～29	64 014	31 585	30 558	1 027	15 669	15 424	245	15 916	48 098	75.1
30～34	73 101	38 474	38 211	263	20 920	20 880	40	17 554	55 547	76.0
35～39	66 278	36 529	36 461	68	22 079	22 063	16	14 450	51 828	78.2
40～44	53 860	30 259	30 215	44	20 140	20 136	4	10 119	43 741	81.2
45～49	41 833	22 943	22 924	19	16 131	16 128	3	6 812	35 021	83.7
50～54	42 054	20 969	20 961	8	17 231	17 231	-	3 738	38 316	91.1
55～59	47 964	21 903	21 896	7	19 479	19 478	1	2 424	45 540	94.9
60～64	39 060	11 648	11 640	8	10 410	10 410	-	1 238	37 822	96.8
65歳以上	86 460	7 828	7 815	13	6 008	6 007	1	1 820	84 640	97.9
女										
総数	639 922	138 673	116 285	22 388	62 697	53 031	9 666	75 976	563 946	88.1
15歳未満	84 975	3 323	-	3 323	1 950	-	1 950	1 373	83 602	98.4
15～19歳	28 620	12 888	1 583	11 305	5 327	832	4 495	7 561	21 059	73.6
20～24	42 946	21 385	14 626	6 759	9 060	6 104	2 956	12 325	30 621	71.3
25～29	53 292	23 616	23 066	550	8 981	8 834	147	14 635	38 657	72.5
30～34	63 687	21 074	20 836	238	8 244	8 191	53	12 830	50 857	79.9
35～39	56 227	14 822	14 721	101	6 506	6 476	30	8 316	47 911	85.2
40～44	45 185	11 245	11 187	58	5 409	5 388	21	5 836	39 349	87.1
45～49	36 329	8 711	8 693	18	4 467	4 464	3	4 244	32 085	88.3
50～54	37 877	8 004	7 992	12	4 412	4 405	7	3 592	34 285	90.5
55～59	44 671	7 561	7 549	12	4 613	4 611	2	2 948	41 723	93.4
60～64	38 397	3 728	3 721	7	2 294	2 292	2	1 434	36 963	96.3
65歳以上	107 716	2 316	2 311	5	1 434	1 434	-	882	106 834	99.2

注) 通学者は15歳未満を含む。

- 昼夜間人口比率は、男性では 40 歳から 59 歳まで、女性ではほぼすべての年齢層で低下 -

図 2 6 男女、年齢（5 歳階級）別昼夜間人口比率の推移(H2～H17)



男女、年齢（5 歳階級）別に昼夜間人口比率をみると、男性は 40 歳から 59 歳までの各階級で低下傾向にあります。100 を超えているのは、平成 2 年では 45 歳から 59 歳までとなり、平成 7 年では 50 歳から 59 歳まで、平成 12 年では 55 歳から 59 歳までと調査の都度その幅が縮まり、とうとう今回の調査では 100 を超える階級がなくなりました。女性はすべての階級において 100 を超えることはなく、一様に低下傾向にあります。（図 26・表 18）

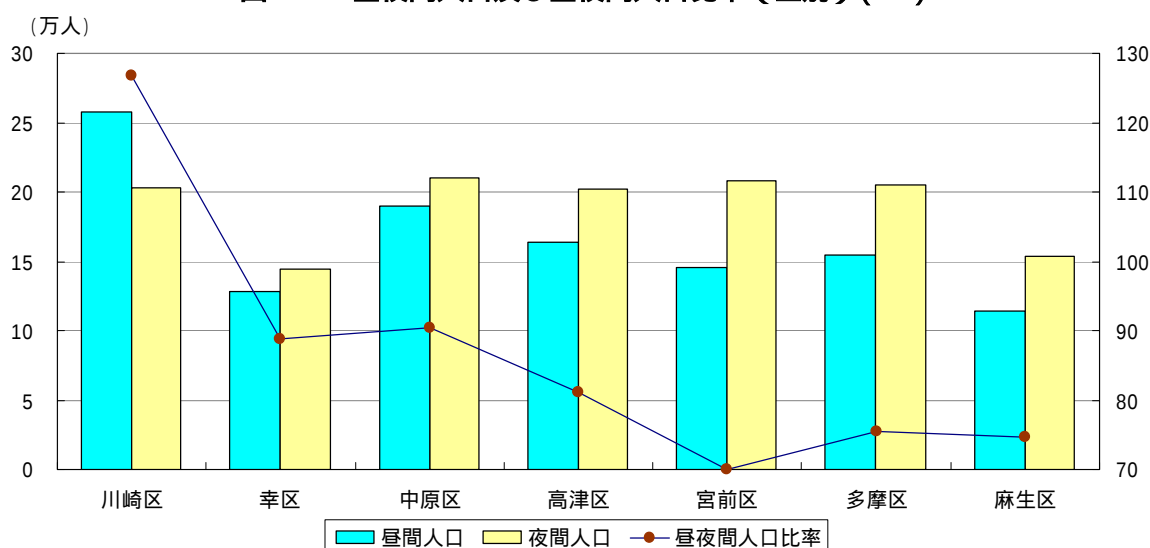
表 1 8 男女、年齢（5 歳階級）別昼夜間人口及び昼夜間人口比率の推移

男女、年齢別	夜間人口(常住人口)			昼間人口			昼夜間人口比率		
	平成7年	平成12年	平成17年	平成7年	平成12年	平成17年	平成7年	平成12年	平成17年
男									
総 数	629 129	649 384	686 230	558 782	563 966	590 490	88.8	86.8	86.0
15歳未満	88 755	87 586	89 289	86 855	85 878	87 607	97.9	98.0	98.1
15～19歳	38 343	33 962	31 156	29 465	25 386	23 077	76.8	74.7	74.1
20～24	67 672	56 161	51 161	53 158	43 484	39 253	78.6	77.4	76.7
25～29	71 292	69 697	64 014	54 808	53 584	48 098	76.9	76.9	75.1
30～34	59 283	68 467	73 101	46 775	50 852	55 547	78.9	74.3	76.0
35～39	44 978	55 210	66 278	36 254	43 228	51 828	80.6	78.3	78.2
40～44	44 192	42 245	53 860	39 749	34 668	43 741	89.9	82.1	81.2
45～49	50 845	42 252	41 833	48 395	37 933	35 021	95.2	89.8	83.7
50～54	43 401	49 340	42 054	44 755	46 813	38 316	103.1	94.9	91.1
55～59	36 825	41 598	47 964	38 700	42 213	45 540	105.1	101.5	94.9
60～64	30 284	33 744	39 060	28 639	32 876	37 822	94.6	97.4	96.8
65歳以上	53 259	69 122	86 460	51 229	67 051	84 640	96.2	97.0	97.9
女									
総 数	572 752	599 645	639 922	508 522	533 124	563 946	88.8	88.9	88.1
15歳未満	84 952	83 084	84 975	82 918	81 752	83 602	97.6	98.4	98.4
15～19歳	35 014	31 995	28 620	25 561	23 786	21 059	73.0	74.3	73.6
20～24	54 488	45 483	42 946	39 946	33 150	30 621	73.3	72.9	71.3
25～29	55 563	58 879	53 292	41 851	44 306	38 657	75.3	75.2	72.5
30～34	47 112	57 183	63 687	39 775	47 254	50 857	84.4	82.6	79.9
35～39	37 381	45 249	56 227	33 480	39 662	47 911	89.6	87.7	85.2
40～44	38 549	36 126	45 185	35 110	32 330	39 349	91.1	89.5	87.1
45～49	46 394	37 884	36 329	42 583	34 390	32 085	91.8	90.8	88.3
50～54	40 807	45 414	37 877	38 141	42 050	34 285	93.5	92.6	90.5
55～59	34 961	39 336	44 671	33 299	37 234	41 723	95.2	94.7	93.4
60～64	30 417	33 430	38 397	29 300	32 350	36 963	96.3	96.8	96.3
65歳以上	67 114	85 582	107 716	66 558	84 860	106 834	99.2	99.2	99.2

(3) 区別の状況

- 川崎区のみ昼夜間人口比率が 100 を超え、126.7 -

図 2 7 昼夜間人口及び昼夜間人口比率（区別）(H17)



区別に昼夜間人口をみると、昼間人口は川崎区が 257,521 人と最も多く、次いで中原区の 190,372 人、高津区の 163,541 人となっています。一方少ない区は麻生区が 114,199 人、幸区が 128,255 人となっています。昼夜間人口比率は、最も高い区が川崎区（126.7）で、唯一昼間人口が夜間人口を上回り、他の区との差が目立ちます。次いで中原区（90.4）、幸区（88.8）となっており、この 3 区が市全体の値（87.1）を上回っています。一方低い区は宮前区（70.1）及び麻生区（74.6）などとなっています。（図 27・表 19）

表 1 9 昼夜間人口及び昼夜間人口比率（区別）(H17)

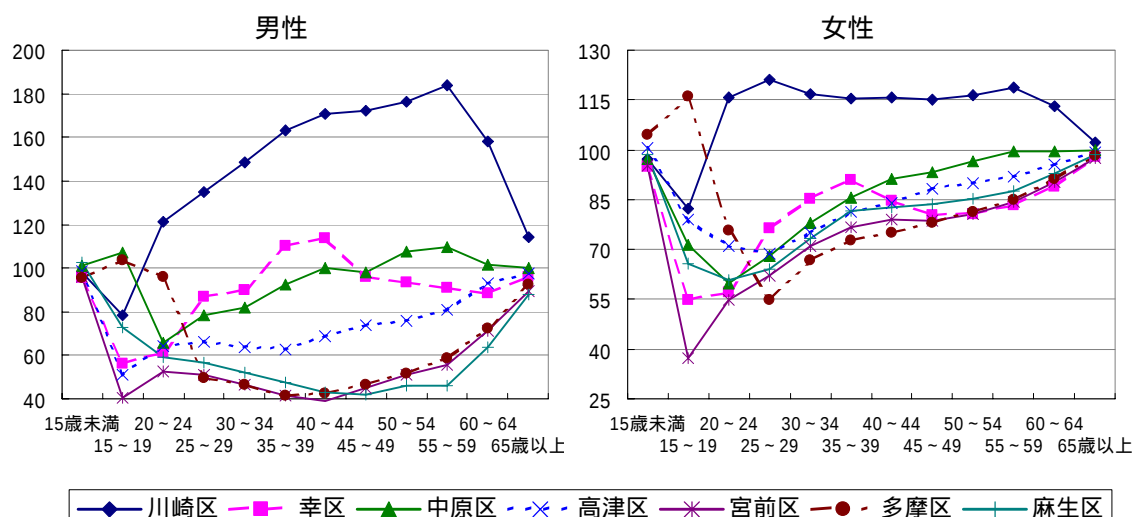
区 別	夜 間 人 口 (常住人口) (a)	流 出 人 口			流 入 人 口			流出超過 人 口 (b - c)	昼 間 人 口 (d) (a - b + c)	昼 夜 間 人 口 比 率 (d/a*100)
		総 数 (b)	15 歳以上 就 業 者	通 学 者	総 数 (c)	15 歳以上 就 業 者	通 学 者			
全 市	1 326 152	401 148	352 543	48 605	229 432	208 932	20 500	171 716	1 154 436	87.1
川 崎 区	203 256	50 106	43 530	6 576	104 371	101 718	2 653	54 265	257 521	126.7
幸 区	144 362	56 257	50 284	5 973	40 150	38 999	1 151	16 107	128 255	88.8
中 原 区	210 506	84 577	75 990	8 587	64 443	59 735	4 708	20 134	190 372	90.4
高 津 区	201 754	82 407	72 940	9 467	44 194	39 787	4 407	38 213	163 541	81.1
宮 前 区	207 872	85 460	74 503	10 957	23 235	21 496	1 739	62 225	145 647	70.1
多 摩 区	205 305	81 619	71 953	9 666	31 215	17 919	13 296	50 404	154 901	75.4
麻 生 区	153 097	61 909	52 513	9 396	23 011	18 448	4 563	38 898	114 199	74.6

注1) 全市の流入・流出人口は区間の流入・流出を除く。

注2) 通学者は15歳未満を含む。

- 川崎区は、特に男性の昼夜間人口比率が高い -

図 2 8 男女、年齢（5 歳階級）別昼夜間人口比率（区別）(H17)



区別に、男女、年齢別昼夜間人口比率をみると、川崎区は男性も女性も「20～24 歳」以上で 100 を超え、他の区よりも昼夜間人口比率が高くなっています。特に男性の高さが目立ち、35 歳から 64 歳までの各階級では 150 を超えており、特に「55～59 歳」では 183.8 と一番高くなっています。幸区は、男性では 25 歳から 44 歳までの各階級で川崎区に次いで高く、特に 35 歳から 44 歳までは 100 を超えています。女性では 25 歳から 39 歳までの各階級で同様に川崎区に次いで高くなっています。中原区は、「25～29 歳」で幸区に次いで高く、年齢とともに上昇し、「50～54 歳」以上では 100 を超えています。女性では「40～44 歳」以上で川崎区に次いで高く、「55～59 歳」以上になると 99.0 以上になりますが、100 には届きません。

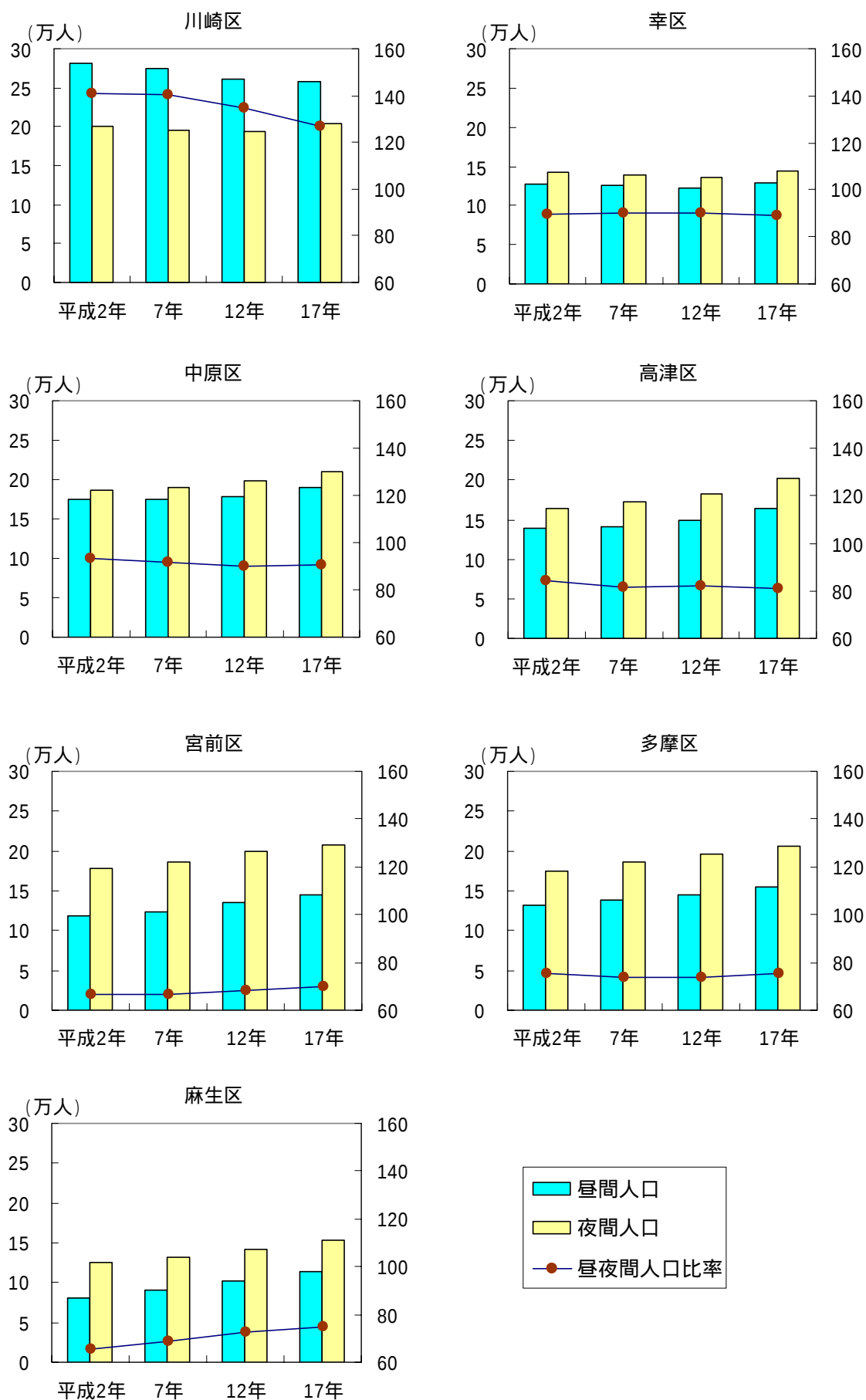
その他の区をみると、川崎市への通学者の流入人口のうち 6 割以上が集中している多摩区が、男性も女性も「15～19 歳」で 100 を超えています。(図 28・表 20)

表 2 0 男女、年齢（5 歳階級）別昼夜間人口比率（区別）(H17)

男女、年齢別	全	市	川 崎 区	幸 区	中 原 区	高 津 区	宮 前 区	多 摩 区	麻 生 区
男									
総 数	98.1		141.6	92.2	93.3	76.1	60.7	68.0	64.7
15歳未満	74.1		98.1	95.6	101.1	98.4	96.2	95.5	102.4
15～19歳	76.7		78.2	56.0	106.9	51.1	40.6	103.6	72.6
20～24	75.1		121.1	61.4	66.0	64.0	52.7	95.9	59.0
25～29	76.0		135.0	87.1	78.2	66.5	51.1	49.4	56.7
30～34	78.2		148.6	90.1	81.7	63.5	46.3	46.7	51.9
35～39	81.2		163.3	110.2	92.6	62.9	41.5	41.5	47.8
40～44	83.7		170.8	113.8	99.9	68.6	39.1	42.7	43.1
45～49	91.1		172.4	95.8	98.3	73.8	44.8	46.7	41.9
50～54	94.9		176.5	93.3	107.4	76.1	50.9	51.7	46.1
55～59	96.8		183.8	91.2	109.8	81.1	55.6	58.6	46.3
60～64	97.9		158.1	88.6	101.6	92.9	71.5	72.1	63.7
65歳以上	0.0		114.0	96.2	100.3	97.5	89.5	92.4	88.1
女									
総 数	88.1		109.6	85.3	87.3	86.3	79.6	83.8	84.4
15歳未満	98.4		97.3	94.9	97.3	100.4	95.4	104.4	98.7
15～19歳	73.6		82.4	54.9	71.2	79.0	37.3	116.0	65.9
20～24	71.3		115.9	57.2	59.9	70.9	54.9	75.5	60.9
25～29	72.5		121.0	76.3	68.1	68.6	62.1	54.8	63.9
30～34	79.9		116.9	85.1	78.1	74.9	70.9	66.9	73.2
35～39	85.2		115.6	91.0	85.7	81.5	76.7	72.6	81.5
40～44	87.1		115.7	84.7	91.4	84.1	78.9	75.0	82.8
45～49	88.3		115.2	80.4	93.3	88.1	78.8	78.0	83.5
50～54	90.5		116.4	80.7	96.4	89.9	80.5	81.3	85.4
55～59	93.4		118.9	83.2	99.4	91.9	84.4	84.9	87.7
60～64	96.3		113.2	89.0	99.5	95.4	90.2	91.2	92.8
65歳以上	99.2		102.2	97.7	99.8	99.1	97.4	98.1	98.6

- 昼夜間人口比率は、川崎区では低下、麻生区では上昇 -

図 2 9 昼夜間人口及び昼夜間人口比率の推移（区別）(H17)



区別に昼夜間人口及び昼夜間人口比率の推移をみると、川崎区は今回の調査で夜間人口が約 1 万人増加しましたが、昼間人口が減少傾向にあり、昼夜間人口比率は低下傾向にあります。幸区は、前回の調査までは夜間人口、昼間人口とも減少傾向にあり、今回の調査で双方とも増加したものの、夜間人口の増加幅が大きく、昼夜間人口比率は低下しました。

その他の区をみると、中原区が平成 7 年の調査で昼間人口が 20 人減少していますが、それを除けば平成 2 年以降いずれの区も夜間人口、昼間人口とも増加しています。昼夜間人口比率は、中原区及び高津区で低下傾向にあり、宮前区、多摩区及び麻生区では上昇傾向にあります。特に麻生区では、平成 2 年の 65.3 から平成 17 年の 74.6 と、9.3 ポイント上昇しました。(図 29・表 21)

表 2 1 昼夜間人口及び昼夜間人口比率の推移(区別)(H2～H17)

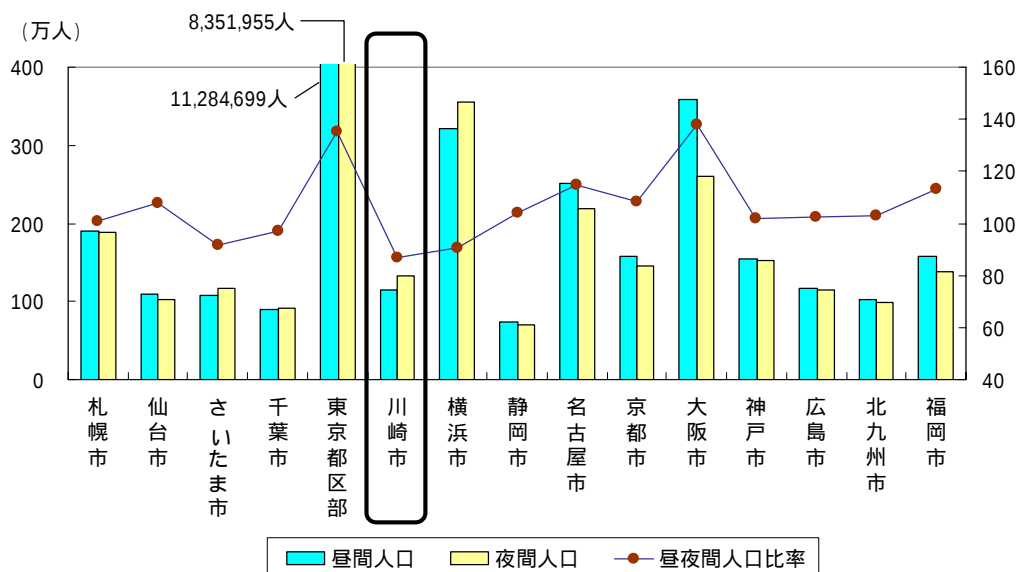
区、年次別	夜間人口 (常住人口) (a)	流出人口			流入人口			流出超過 人口 (b-c)	昼間人口 (d) (a-b+c)	昼夜間 人口比率 (d/a*100)
		総数 (b)	15歳以上 就業者	通学者	総数 (c)	15歳以上 就業者	通学者			
川崎区										
平成2年	199 910	49 845	41 415	8 430	131 948	124 467	7 481	82 103	282 013	141.1
7年	195 759	48 413	40 633	7 780	127 111	122 109	5 002	78 698	274 457	140.2
12年	193 929	47 389	40 465	6 924	114 669	110 860	3 809	67 280	261 209	134.7
17年	203 256	50 106	43 530	6 576	104 371	101 718	2 653	54 265	257 521	126.7
幸区										
平成2年	142 136	58 523	49 238	9 285	43 564	418 363	17 361	14 959	127 177	89.5
7年	139 030	57 025	49 445	7 580	43 594	42 123	1 471	13 431	125 599	90.3
12年	136 400	54 312	47 679	6 633	41 092	39 686	1 406	13 220	123 180	90.3
17年	144 362	56 257	50 284	5 973	40 150	38 999	1 151	16 107	128 255	88.8
中原区										
平成2年	187 366	78 563	67 597	10 966	65 768	58 353	7 415	12 795	174 571	93.2
7年	190 234	80 687	70 796	9 891	65 004	58 835	6 169	15 683	174 551	91.8
12年	198 273	79 580	70 657	8 923	59 990	54 671	5 319	19 590	178 683	90.1
17年	210 506	84 577	75 990	8 587	64 443	59 735	4 708	20 134	190 372	90.4
高津区										
平成2年	164 030	72 431	60 058	12 373	46 982	41 517	5 465	25 449	138 581	84.5
7年	172 170	78 606	66 670	11 936	46 940	41 717	5 223	31 666	140 504	81.6
12年	182 062	78 119	67 765	10 354	45 793	41 097	4 696	32 326	149 736	82.2
17年	201 754	82 407	72 940	9 467	44 194	39 787	4 407	38 213	163 541	81.1
宮前区										
平成2年	177 411	81 557	66 560	14 997	22 011	19 032	2 979	59 546	117 865	66.4
7年	185 482	86 384	72 705	13 679	24 249	22 224	2 025	62 135	123 347	66.5
12年	199 832	87 116	75 152	11 964	23 197	21 469	1 728	63 919	135 913	68.0
17年	207 872	85 460	74 503	10 957	23 235	21 496	1 739	62 225	145 647	70.1
多摩区										
平成2年	175 237	80 877	68 258	12 619	37 350	17 674	19 676	43 527	131 710	75.2
7年	186 989	85 501	73 222	12 279	36 762	18 804	17 958	48 739	138 250	73.9
12年	196 485	84 586	73 681	10 905	33 517	18 297	15 220	51 069	145 416	74.0
17年	205 305	81 619	71 953	9 666	31 215	17 919	13 296	50 404	154 901	75.4
麻生区										
平成2年	124 951	59 285	47 325	11 960	15 868	10 377	5 491	43 417	81 534	65.3
7年	132 217	61 923	49 810	12 113	20 302	14 784	5 518	41 621	90 596	68.5
12年	142 048	60 290	49 880	10 410	21 195	16 378	4 817	39 095	102 953	72.5
17年	153 097	61 909	52 513	9 396	23 011	18 448	4 563	38 898	114 199	74.6

注) 通学者は15歳未満を含む。

(4) 昼夜間人口の大都市比較

- 昼夜間人口比率は、さいたま市、千葉市、川崎市及び横浜市の4市が100を切る -

図30 15大都市の昼夜間人口及び昼夜間人口比率(H17)



平成17年の15大都市の、流出口から流入人口を引いた結果（流出超過人口）をみると、横浜市が340,303人と最も多く、次いで本市が171,716人、さいたま市が95,039人、千葉市が25,523人となっており、上記4市以外は逆に昼間人口が夜間人口を上回る流入超過となっています。その流入超過人口をみると、東京都区部が2,932,744人と最も多く、次いで大阪市が986,989人、名古屋市が322,223人、福岡市が186,259人などとなっています。

昼夜間人口比率をみると、大阪市の138.0が最も高く、次いで東京都区部の135.1、名古屋市の114.7、福岡市の113.4と続いています。流入超過人口の多い都市が、必然的に昼夜間人口比率も高くなっています。一方、昼夜間人口比率が最も低いのは本市の87.1で、次いで横浜市の90.4、さいたま市の91.9、千葉市の97.2となっており、東京都の影響が大きいこれら4市だけが100を下回っています。（図30・表22）

表22 15大都市の昼夜間人口及び昼夜間人口比率(H17)

大都市別	夜間人口 (常住人口) (a)	流出口 (b)	流入人口 (c)	流出超過 人口 (b - c)	昼間人口 (d) (a - b + c)	昼夜間 人口比率 (d/a*100)
札幌市	1 877 965	69 051	85 032	15 981	1 893 946	100.9
仙台市	1 020 160	53 743	132 564	78 821	1 098 981	107.7
さいたま市	1 172 677	309 746	214 707	95 039	1 077 638	91.9
千葉市	919 550	200 816	175 293	25 523	894 027	97.2
東京都区部	8 351 955	421 545	3 354 289	2 932 744	11 284 699	135.1
川崎市	1 326 152	401 148	229 432	171 716	1 154 436	87.1
横浜市	3 545 447	739 648	399 345	340 303	3 205 144	90.4
静岡市	700 575	28 040	54 675	26 635	727 210	103.8
名古屋市	2 193 973	194 570	516 793	322 223	2 516 196	114.7
京都市	1 460 688	118 297	240 589	122 292	1 582 980	108.4
大阪市	2 594 686	252 062	1 239 051	986 989	3 581 675	138.0
神戸市	1 520 551	180 078	207 498	27 420	1 547 971	101.8
広島市	1 144 498	64 426	94 329	29 903	1 174 401	102.6
北九州市	992 654	50 322	78 115	27 793	1 020 447	102.8
福岡市	1 384 925	76 289	262 548	186 259	1 571 184	113.4